

平成29年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成29年11月29日

施設名	幡多青少年の家	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

施設所在地	幡多郡黒潮町上川口1166
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営に関すること ・施設の利用の許可に関すること ・設備の維持管理に関すること ・主催事業及び受入事業の企画運営に関すること <p><平成28年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習プログラム ・わくわくチャレンジ ・泊まってドキドキ！遊んでワクワク！ ・できるかな？～自分たちのカレーづくり～ ・チャレンジスキムボード ・楽しく体を動かす魔法 ・心のふれあい～シルバー編～ ・ちびっ子忍者～落城合戦～ ・季節の食べ物とおはなしの夕べ ・メリークリスマス ・小学生バレーボール大会 ・中学生リーダー研修 ・みんなで食べよう～親子でカレーづくり～ など
施設内容	<p>幡多青少年の家においては、本県の基本的教育課題である「心豊かで自立できる人づくり」の理念を達成するため、当所の目標を掲げ、また随時運営方針を見直しながら、事業の2つの柱である受入事業及び主催事業を実施している。</p> <p>構造:本館 鉄筋コンクリート 2階建 延べ2,655.55㎡ 体育館 鉄筋コンクリート2階建 延べ1,192.26㎡</p> <p>施設概要: 本館宿泊棟 25室(定員200名) 食堂 (定員200名) 大研修室(映写室)(定員200名) 中研修室(定員50名×2室) 小研修室(定員20名) 和室(8畳・6畳) 茶室 野外炊飯棟 115.52㎡</p>
職員体制	<p>職員:所長1名 チーフ1名 主任社会教育主事2名 社会教育主事1名 非常勤職員2名 臨時的任用職員3名 <u>合計:10名</u></p> <p>現業部門は、大方青少年育成会に委託(9名)</p>

2 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
宿泊者数	8,890	8,698	8,875	7,483	8,388	8,467

(2) 利用団体数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
団体数	509	491	389	398	501	458

(3) 利用者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
人数	26,309	23,526	20,983	20,155	22,315	22,658

3 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>○豊かな自然環境に恵まれた施設の立地条件を活かした体験活動や宿泊学習事業を展開するとともに、その充実に努めている。</p> <p>○各市町村教育委員会への訪問や校長会への出席に加え、マスコミへの情報提供や大学サークルへのPRなど、新たな団体への広報活動に取り組んでいる。また、隣県の校長会や教育委員会への訪問も継続しており、幅広い利用拡大を推進している。</p> <p>○ホームページやSNS(フェイスブック)の活用により、情報の発信を随時行っている。</p> <p>○地域の学校との連携や地域行事への参加、また、地域の高齢者の交流を目的とした事業を展開するなど、地域に根差した活動を行っている。</p>
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>○これまで、定員に満たない団体の場合は対応できなかった体験活動について、プログラムの組合せにより柔軟に対応するなど、利用者のニーズに応じた取組を行っている。</p> <p>○閑散期における対応として、高知市及び県内大学までの送迎バスを運行し集客に努めた。</p> <p>○「地震災害対応マニュアル」の見直しを行い、状況に応じたマニュアルの細分化によりスムーズな対応に備えている。また、宿泊室については、定員に応じた適切な宿泊配置を行い、災害時の緊急対応に備えて空き部屋を確保した。</p>
③施設の運営について	<p>○現業部門を委託している一般財団法人大方青少年育成会と協働して事業等に取り組んでいる。また、主催事業についても、育成会とともに実施案の検討会を行い、企画・立案から事後の振り返りまでを徹底して行うことで、施設全体でより良い結果となるよう取り組んでいる。</p> <p>○施設各部署の管理責任者のもと、定期的な安全点検を実施し、施設環境の整備を迅速に行っている。</p>
④利用実績	○平成27年度と比較して、宿泊者数:905名増加、利用団体数:103団体増加、利用者数:2,160名増加。
⑤収支の状況	○平成27年度と比較して、使用料収入は約347千円の増収となった。

<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>○海での活動及び防災学習をメインとした取組は、施設の独自性を最大限に活かしている。また、「地震防災マニュアル」については、野外活動中における避難場所を明確化するなど、利用者の安全について万全を期している。</p> <p>○継続利用団体の活動がマンネリ化しないように、新規プログラムの開発と提案を行い継続利用へと繋げている。</p> <p>○不登校対策として「わくわくチャレンジ」を展開するとともに、「中一学級づくり合宿事業」では、施設が保有する数あるプログラムを提供をすることで、学校現場が抱える課題の解決に対応している。また、新たに長期宿泊体験の受入れも開始し、県の施策に沿った施設のあり方を体現している。</p> <p>○地域で様々な活動を行っている方々の協力を得て、その人的ポテンシャルを事業のひとつに取り入れる姿勢は地域の発展にも貢献しており、大いに評価できる。</p> <p>○組織の基本理念に基づき、体験活動プログラムを通して社会の中でよりよく生きていく力を身につけるための「教科書」となれるよう、豊かな自然に囲まれた施設の立地条件を更に活用した事業展開を期待する。また、海・山・川を一体化したオリエンテーリングの充実に期待する。</p> <p>○近年では施設周辺でも「塩づくり」が盛んになっているが、地場産業の振興及び育成を兼ねた学習として、製塩を学ぶプログラムの導入を期待する。また、地域に数多く点在する歴史を探訪するプログラムにも期待したい。</p> <p>○黒潮町が抱える「日本一の津波想定被害」に対し、真っ暗闇で避難生活体験を行うなど、よりリアルな防災体験学習プログラムを構築し、地域住民を交えながら防災意識や備えを更に高める取組をお願いしたい。</p> <p>○海での体験活動は他施設とは一線を画する重要なPRポイントであることから、更なる充実を図るとともに、「核」となる目玉事業の構築を目指してほしい。</p>
--------------------	---

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの